

議長（竹島ユリ子君） 4番 川崎和夫君。

4番（川崎和夫君） おはようございます。

私は、ごみの問題についてともう1点は要望ではありますが、交通安全の啓蒙ということについてお伺いします。

県内でも、ことしの4月よりスーパーのレジ袋の有料化が予定されております。

地球にやさしい、環境にやさしい循環型・脱温暖化社会の実現のためには、より一層の環境保全の活動に取り組む必要があると考えられます。

また、人が生活していく上で、ごみは必ず発生するものです。これらのごみを減らす3つのRとして、ごみの発生抑制（リデュース）、再び使う（リユース）、ごみの再利用（リサイクル）というものがあります。

また、3月の村報の中にありましたが、役場の生活環境課より、平成20年4月からの「家庭ごみの出し方」が作成され、中身も前回よりもわかりやすい表現になったと思います。

舟橋村のごみは、富山地区広域圏事務組合で処理されております。昨年の4月より、ごみの呼び方の統一、またこれまで「可燃ごみ」で処理していたやわらかいプラスチック類と「不燃ごみ」で処理していたかたいプラスチック類を、いずれも燃やせる「可燃ごみ」として処理することとなりました。

平成18年と19年の舟橋村のごみの総排出量を1人当たりのごみ排出量で比較してみますと、平成18年度は単月平均で5万1,538キログラム、平成19年度は5万5,236キログラムと月に3,726キログラムの増加で、住民1人当たりでも平成18年の18.19キログラムから19.04キログラムと0.85キログラムの増加となっています。

また、その中でも、可燃ごみの排出量はごみ全体量の約8割を占めており、平成19年の可燃ごみは、前年度に比べると平均で6.7%の増加で、月3,833キログラムの増加となっております。2月、3月の19年度の実績が入っていませんが、予想される排出量を加えると、総額で500トンを超えることが予想され、今までの最高の排出量となると予想されます。

可燃ごみの総排出量は、平成6年の277.3トンから平成18年には477.67トンとなり、172.26%と右肩上がりの状況で推移しています。

一方、可燃ごみの増加に比べて、リサイクル可能なごみの排出量が減っており、プラ

は前年対比27キ口の101.4%の増ですが、1人当たりでは97.7%と2.27%の減少になっております。ペットボトル、段ボールを除いて、紙容器は1人当たり前年対比で89.53%、雑誌では92.41%、新聞では95.73%と前年度に対してすべて減少しております。

ごみの減量化、リサイクルの推進については、ごみの発生抑制やリサイクルに対する啓蒙活動を推進し、循環型社会の構築を目指す必要があります。

また、2日ほど前の新聞に出ておりましたが、福岡県の大木町ですか、「ごみゼロ宣言」というのがなされました。これは全国で2番目であります。リサイクルとか何かを進める中において、究極の目的というのはごみのリサイクルではなかるうかと。

また、家庭から排出されるごみの中には、まだまだたくさんの資源ごみが混入していると思われます。これらを分別排出し、資源化されれば、ごみの量を減らすことができると思います。

富山地区広域圏の最終処分場の排出量は、今現在7割ほどが満杯になっているんですが、あと5年ほどは大丈夫だろうと。だけれども、やはりいつかは次の処分場を探さなければいけないということになった場合、循環型社会を目指していくときには、やはり限りある資源・エネルギーを十分に活用しなければいけないのだろうと思えます。住民一人一人がごみの減量化とごみ処理にかかるコスト意識を持つことが重要ではないかと思えます。ごみ処理においては、多額のコストや環境面での課題も多くあります。

ごみ処理経費としては資料がなく、分析はできませんでしたが、舟橋村におけるごみ収集などにかかる費用、ごみの処理費用とごみの減量化の対応リサイクル推進の考え方について、村長にお伺いしたいと思えます。

これは要望ですが、交通安全の啓蒙についてお伺いいたします。

自分自身、毎日の通勤で気がついたのですが、交通安全の標語がことしの3月の村報に募集されたのが載っておりましたが、通勤途中で非常に目にするのが交通安全の標語であります。

舟橋村でも、交通安全協会によって標語の募集と掲示が行われておりますが、注意しないとわかりにくい、目につきにくいところにあるため、やはり啓発活動がもう少し必要ではないかと。

先ほどから話もありますが、舟橋小学校の耐震工事も始まり、また富立大橋の開通により、村内の交通の流れも大きく変化してきました。行政と交通安全協会などでもっと

インパクトのある交通安全の啓蒙を検討できないかお願いします。

以上であります。

議長（竹島ユリ子君） 村長 金森勝雄君。

村長（金森勝雄君） 川崎和夫議員のご質問にお答えいたします。

舟橋村のごみの状況でございますが、平成19年度版富山県の環境白書で数字を挙げております。これは県民の1人1日当たりのごみの排出量は986グラム/日ということになっております。この数値をもって、舟橋村で発生する年間のごみ量を試算いたしますと、1,053.76トンとなるわけでございまして、そのごみの量のうち、容器・紙などは23%、容積で60%を占めると言われております。

先般、富山地区広域圏事務組合から公表されました一般廃棄物(燃えるごみ)の量は、平成19年4月から平成20年1月までの累計数量で見ますと、市町村全体の総量では、富山市、滑川市はエコタウンでのリサイクル処理により1.22%減少しておりますけれども、立山町、上市町は3%弱の増加、舟橋村では6.69%の増加を示しております。本村の増加につきましては、単純に人口増によって増えたものではなく、1人当たりのごみの量が増えたことも事実であると思っております。

また、ごみ処理事業にかかる経費につきまして申し上げますと、平成18年度の収集運搬費、ごみ処理、リサイクル処理、クリーンセンター等の建設に伴っての負担金も含めてでございますが、総合計いたしますと2,161万9,000円でありまして、村民1人当たりの額にいたしますと、年額7,511円もの処理費がかかっております。

この現況を見て、川崎議員は、舟橋村のごみ量は広域圏内で一番高い増加率を示しており、経費節減からもごみの減量化対策にもっと積極的に取り組むことが大切ではないかといった趣旨のご質問であると思っております。

ご承知のとおり、平成7年、容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律、いわゆる容器包装リサイクル法が制定されまして、平成17年度の見直しにより完全実施となりました。舟橋村では、平成17年度当初には現自治会ごとに説明会を開催いたしまして、皆さん方のご理解とご協力のもとで、現在の収集体制となっているのであります。この間、平成14年度には、東芦原団地と竹鼻団地、17年度には稲荷、18年度には国重自治会から容器包装収集日を増やしてほしいとの要望があったのでありますけれども、その時点では収集業務者の対応能力などの問題がございまして、実施を先送りしたところでございます。

しかし、今年度は収集業者がかわったこともありますし、あるいはまた経費節減に努めまして、約520万余りの節減が可能であるということも判明いたしましたので、平成20年度からはプラスチック製容器包装の収集日を月2回から週1回に増やし、その収集日カレンダーを3月広報に折り込み、全戸配布したところであります。

しかし、ごみの減量化、リサイクルの推進は、収集回数の問題ではなく、議員ご指摘のとおり、住民一人一人の減量化に対する自覚を持っていただくことが最も大切なことであると思っております。

今後は、分別収集及びリサイクルの必要性をそういった呼びかけの機会を検討いたしまして、より一層アピールしてまいりたいと思っております。

そして私は、タウンミーティングではこういった数字をもって皆さんに呼びかけ、またご理解、協力していただくような環境も整えてまいりたいと思っております。一部の村民の方から、今の収集業務に当たっては、収集車がいろんなものが混じっておっても、分別されていなくても収集しているという話を聞いております。私はそういったことのないように、収集業者には分別されていない違反ごみは回収しないように指導してまいりたいと思っておりますので、ご理解をいただきたいと思えます。

また、イベント等から排出されるごみにつきましても、リサイクルの推進を図ってまいり所存でもあります。どうかご理解のほどをよろしくお願いしたいと思います。

次に、交通安全の啓蒙についての要望にお答えしたいと思います。

ご承知のとおり、去る3月5日、本村の交通死亡事故ゼロの日数が平成14年9月2日から本年2月23日に至る2,000日を達成したといった功績に対しまして、富山県交通対策協議会 会長は知事でございますが から特別表彰状が舟橋村交通対策協議会 会長は村長になっておるわけでございますが に授与されたのであります。

このことは、日ごろから行政と村民が一丸なって、各種交通安全対策の推進と村民の交通安全意識の高揚などに努めたことに寄与するものと私は思っております。

今後は、交通死亡事故ゼロの日の延伸を図るということはもちろんでございますけれども、安全で安心な村づくりを推進するため、交通安全対策協議会、上市区域交通安全舟橋支部の皆さんと連携を図りながら、より効果のある交通安全対策を講じてまいりたいと考えております。

また、交通安全標語の掲示等につきましては、特別な試みといたしまして、春・秋の全国交通安全運動の期間中は、舟橋駅周辺に配置いたしまして、インパクトのある啓発・

啓蒙に努めてまいりたいと思っておりますので、どうかご理解、ご支援を賜りたいと思
います。

以上をもって私の答弁にかえさせていただきます。よろしくお願い申し上げます。